

# 日本放射線腫瘍学研究機構(JROSG) 緩和医療委員会議事録

日時：2020年11月30日(月)：17時00分～18時00分

会場：Zoom ミーティング

出席者：鹿間直人、野崎美和子、高橋健夫、原田英幸、永倉久泰、内田伸恵、斉藤哲雄、平安名常一、中村直樹、小杉崇、戸成綾子、宮澤一成、多湖正夫、山田和成、和田仁、関井修平、窪田光、川本晃史、JROSG 事務局(大橋) (順不同・敬称略)  
オブザーバー：平野靖弘 (敬称略)

## 開会

委員長(鹿間)からの挨拶

報告事項

### 1. 新規委員

新規の委員はなし

### 2. 理事会報告：済

### 3. 他組織との活動報告

(ア) JASTRO

(イ) 茂松班

(ウ) 他(日本緩和医療学会 研究課題公募)

検討事項

## 臨床試験進捗状況

### ① JROSG 11-1 腎癌骨転移に対する放射線治療とゾレドロン酸併用療法の臨床第 II 相試験(原田)

- ・ 主論文は JJCO へ掲載
- ・ 付随研究に関して画像の解析に関して  
→担当は窪田先生。MDA criteria を参考に全症例の画像評価と臨床データとの関連性の評価を行う。

### ② JROSG17-3 出血を伴う胃癌への緩和的放射線治療の有効性を調べる多施設観察研究(斉藤、小杉)

- ・ 60 例に登録を増やした。  
→2020年9月で登録期間終了。55例登録。評価可能は37例  
有害事象は食欲不振 Grade 3 の1例のみが照射関連のもの。  
2021年度のASTROに演題登録予定。

## 新規臨床研究の作成状況

### ① 四肢長管骨転移に対する術後放射線治療に関する8 Gy/1回照射のパイロット試験(窪田、中村)

- ・ アンケート調査に関する論文は JRR にアクセプト

#### \* 新規試験のプレゼン内容

腫瘍評価項目：6か月時点での本試験において8 Gy/1回照射をおこなった部位の四肢機能改善割合

予定登録症例数：25 例

相談事項：

- ・本研究は直接的には SC24 試験とは関与しないため、このまま進めてもよいか？
- ・一方で、長期生存が期待される手術症例において線量増加で長期疼痛 CR が得られる可能性があるため、このまま本研究を進めるか否かの検討が必要か？
- ・方向転換するとすれば、(切迫)病的骨折を有する四肢長管骨転移を対象にして「術前定位照射＋手術」などの治療開発はどうか？

\*コメント：

定位照射関連が世界的には興味があるかもしれない。しかし、日本では保険の関係で難しい。症例数がすぐに集まっていく感じでは無ければ、その傾向をレトロで解析していくか。

\*今後

8 Gy/1 回照射で臨床試験を行なっていくかはどうかを再検討。

② 緩和的放射線治療と分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬の組み合わせの安全性に関する多施設前向き観察研究（関井、鹿間）

\*提案内容

- ・**Review** では ICI と RT の併用は一般的に安全であることが示唆されている
  - 研究の方向性としては従来の緩和照射と定位放射線治療を区別して、部位をしぼって前向き観察研究はどうか
  - 脊椎転移に対する緩和照射/定位放射線治療において ICI との組み合わせの安全性について検討

\*コメント

症例数が多いと負担となるため、肺と消化管で部位を検討していくのはどうか。

\*今後

緩和照射＋ICI でプロトコル作成していく。事前に ICI が入った症例で前向きに

③食道通過障害を伴う食道癌への緩和的放射線治療の有効性に関する研究の提案（川本）

進行/再発食道癌による通過障害改善を目的とする緩和的放射線治療に関する全国実態調査  
第 74 回日本食道学会学術集会(2020.12.10-11)で発表

報告内容を論文として仕上げている状態→投稿先 **Esophagus, JJCO, JRR** など検討

現在京都大学を中心に外部照射に関する観察研究がされており、結果次第で線量増加などに関する検証的な研究が必要かと思われる。

現状新規としての臨床研究としては行わずに、全国実態調査の論文が掲載後、本研究は一度終了予定。

→中村先生よりイタリアで行われたアンケート調査が掲載された雑誌 **Digestive and liver disease (IF:3.57)** はどうかとのことでまずは国際雑誌を目指して投稿する。

その他

- ・支持療法の研究もテーマの一つ。
- ・次回の部門別委員会は未定であるが、web 会議も行っていく予定。